

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401277		
法人名	有限会社 あっぷる		
事業所名	グループホームありあけ		
所在地	長崎県島原市有明町大三東丙470番地1		
自己評価作成日	令和4年10月4日	外部評価結果確定日	令和5年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401277-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和4年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街にある1ユニットの家庭的な雰囲気大切に、スタッフと利用者様の笑いの絶えない楽しいホームです。
 開設時より、掃除・清潔保持・環境整備には特に力を入れており、年に2回は徹底した大掃除をおこなっています。スタッフの勤続年数が長い利用者様との信頼関係も強いです。
 毎日のレクリエーション活動ではスタッフ3人が、ひとりひとりに合わせた内容で支援し、楽しい時間を持つことができています。
 コロナ禍のなかでも、ご家族様との面会をできる限り支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔からの住宅街に、懐かしい佇まいを残す旧病院の建物を利用して作られたホームは、温かみのある家庭的な雰囲気にあふれている。みんなが集まるリビングの続きに厨房が併設され、包丁の刻む音、煮炊きするにおいなど感じることができる。「看介護日誌」には日常の様子がていねいに記録され、家族とのコミュニケーションに活用されており、利用者本位のサービス向上に繋がっている。また、日常を写したスナップ写真も秀逸で、各利用者の部屋に飾られているが、一目でホームでの日々を知ることができる。レクリエーションも工夫され、個性の高いアプローチをしている。生活支援を中心に考えられたケアサービスであり、脱衣室の利用者それぞれのBOXが空き段ボールにきれいな和紙を貼ったものが用意されているなど、実際の家庭のような環境があり、スタッフ全員が努力して手作りの介護サービスを実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とリビングに掲示して、1日にいちどは声に出して読むことで共有し、実践に繋げている。	「その人らしく笑顔で過ごしましょう」の理念は、利用者が地域の中で残存能力を発揮しながら、自分なりの暮らし方ができるよう支えることを表しており、すべての支援の根幹となって、常に立ち戻りながら日々実践されている。	理念の共有と実践について、様々な取り組みを行っているところであるが、更に深化させるという目的で、理念にまつわる年間の目標、毎月の目標、個人の目標を設定する等行い、目指す方向を、より一層磨きをかけることが望ましい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームだよりを通して、町内に様子を伝え週2回ごみ置き場の掃除と市民清掃参加、近所の床屋さんへ訪問カット依頼、氏神様の祭りのみこしを庭まで入ってもらうなど、地域とのつながりをもった取り組みを実践している。	昔からの住宅地で、ご近所の方からいつも差し入れがあり、旬の野菜が食卓にのぼる。また行事・来客時などの際は、申し出によりホームの駐車場を提供することもある。ご近所との関係性の深さは、地域の中に根付いた場所となっていることが感じられる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、外部研修の報告や認知症の理解や関わり方を周知している。また地域の方からの介護相談を随時受け付けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着を大切にし、利用者や家族からの意見や要望を、事業所運営に活かしている。当ホームの広報誌や写真などで日々の活動が分かるような取り組みをおこなっている。地域代表の方からの地域情報なども収集できている。	コロナ対策を十分に配慮しながら、できるだけ意見が聞けるよう対面での開催をしている。ホームの活動をよりわかりやすくするため、日常風景のスナップ写真も提示し理解を深めてもらっている。地域代表の方から行事情報、また花の見頃を教えてもらうなど、双方向のお付き合いがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の運営や介護サービスの疑問点については、その都度訪問し、直接お尋ねするようにしている。 情報交換をおこない、より良いサービス提供ができるよう取り組んでいる。	運営推進会議参加などを通して、行政とは顔の見える関係を築いており、相談しやすい環境が整っている。ホームの活動について情報共有がなされているため、現場や利用者の課題解決についてのサポートも受けることができ、より親身に寄り添う支援に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関・窓は施錠していない。安全面で足元センサーマットを使用している方と、一時的につなぎ服を着用されている方がいるが、月1回のミーティングで改善策を話し合い、身体拘束ゼロを目標にしている。	チェックリストにより改善点を見出し、職員会議で対応策を検討、全体へフィードバックしている。日常の支援の中でも職員間相互でチェックし、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。その都度確認ができるように、身体拘束についてイラスト風にしたものを作成し、すべての職員に理解を深めてもらうよう工夫されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の虐待防止の研修に参加している。 正しい知識と理解をもち虐待が見過ごされることがないように日頃から観察し、スタッフ間で声を掛け合いながらストレスを溜めないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての資料を回覧し、学ぶ機会を設けている。今までも必要に応じて活用してきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、時間をかけて十分納得してもらえるように配慮している。改定の際も説明し理解をいただいている。疑問等ある場合は、いつでも対応できることもお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。面会時には家族へ積極的に声を掛け、看介護日誌にも目を通してもらい、意見や要望を伝えやすい関係づくりに努めている。	「看介護日誌」はていねいに日常の様子が書かれており、その中から家族からの聞き取りや要望などの話を聞くことができている。家族とのコミュニケーションにより利用者へのさらに良い支援に繋がるよう努力されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で、意見や要望や提案を聞いて、運営に反映させている。	職員との面談は年に数回あるが、それ以外にも随時管理者などから声掛けをし、職員の気持ちをくみ取るように心掛けている。利用者との日常な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアも活発にあり、提案された設備などはほぼ購入、設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフがやりがいを持って働けるよう意見を聞き、資格や勤務状況などを考慮して報酬にて評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスを作成しており、スタッフの力量に応じた外部研修の提案と参加支援をしている。研修内容を職員会議で共有している。資料を回覧し、知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、情報交換をおこなっている。WEBでの勉強会に積極的に参加し、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式の“私の姿と気持ちシート”を全スタッフが、個々に聞き取りを行うことで、あらゆる面から利用者様の思いを知ることができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴や家での様子、家族の要望を聞いている。 支援方法や不安なことなどを相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの希望や要望を踏まえ、適切なサービスを提供できるよう、担当のケアマネージャーとも相談し初期対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることや、関心があることを見つけて一緒におこなっている。職員が利用者から教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態をまめに家族へ報告し、月1回ホームでの生活を撮影した写真を送っている。面会時に情報を共有している。外出や外泊にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のなかでも、出来る限り面会ができるように定期的に面会制限を見直している。 なじみの美容室や、かかりつけ医への受診支援をおこなっている。	時折、利用者が暮らしていた自宅を眺められるよう個別でドライブに出かけることがある。 ホームに帰って来た時はもう忘れてしまっても、自宅の近くでたくさんの思い出話があり、うれしそうな顔をみることが自分たちの喜びでもある、とのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方と、ソファでくつろげるように配慮している。利用者同士が関わりを持てるよう会話をつなげたり、レクリエーションを通して仲良くなれるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もこれまでの関係を大切にしている。入院退所の際は、退院後の受け入れ先や再入所なども含め、家族と相談し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向をくみ取り、スタッフ間で共有できるように努めている。	利用者様の思いや意向を含めた基本的な情報は、入居時にご家族や担当のケアマネジャー、病院関係者より情報収集することがベースとなっている。特に意向の把握が困難なケースは重点的に確認している。入居後は、「私の姿と気持ちシート」という書式に本人の言葉や家族の言葉、スタッフの気づきを随時書き加えていき、情報を共有することで利用者様の望む生活に近づくよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いたり、日常生活の会話の中でも把握することが多い。、居宅介護支援事業所より情報提供していただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを大切に、朝食の時間を遅くしたり、就寝時間を設けていない。出来ることの発見や状態の変化を介護日誌に記入してマーカーを引くことで全スタッフがリアルタイムで把握できており、現状に適した対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で話し合いながら介護計画の原案を作成している。毎月モニタリングをおこない改善点や問題点などがないかを話し合っている。本人、家族の意向に沿ったプランを作成して、統一したケアに努めている。	介護計画書の作成手順については利用者様やご家族、ホーム内の他職種共同で意見を出し合いながら実施している。今現在の利用者様の状況を大切に考えており、毎月実施しているモニタリングの中で、利用者様の状況や気持ちの変化等共有を図っている。このようなプロセスを経て計画書を作成しているので、可能な限り利用者様の意向に沿った計画の下、実務的な支援を提供できている。ご家族の意向にも配慮して、可能な範囲での歩行訓練の希望や、腰痛が増強したら病院受診をしてほしい等の希望に沿っているとのことであった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録にマーカーで印をつけて、一目で分かるようにし、職員間で共有できるように工夫している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、点滴時の付き添い、看取りなど必要な支援は柔軟におこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防団に、火事や災害時の協力をお願いしている。近所の理容室の訪問カットや図書館から本や紙芝居を借りて楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と相談し、継続してかかりつけ医を受診される方や、看取りケアを見据えて在宅医療に積極的に協力して下さる医師に変更される方もいる。往診による利用者の通院負担の軽減にも取り組んでいる。	ホームの方針としてかかりつけ医は入居前の医療機関でも構わないし、ホームが提携している診療所に変更しても構わない。このように利用者様やご家族の意向に沿っている。受診に際しては訪問診察や職員同行型、ご家族同行型等、意向や利用者様の心身の状況に合わせて行っている。また、職員間における受診後の状況確認については、送りノートや日誌にて確認できる。ご家族への報告手段は電話や特に大きな変化がなければ文書にて通知するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疑問点や気づきは、すぐに看護師や医療連携の訪問看護師に相談し、アドバイスをもらい、適切な受診や対応をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会をおこない情報収集に努めている。医療機関と家族と連携をとっている。カンファレンスへの参加や看護サマリーを提供していただき支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて、本人・主治医・家族との話し合いの場を設け、要望に沿った支援をおこなっている。主治医・家族・訪問看護師と連携をとり、安心して最期の時を迎えられるように支援している。	利用者様の心身の状態が重度化や、終末期に入った際は、入居契約時の意向確認や、ご家族の気持ちに沿って主治医とも相談しながら対応するようにしている。今までホームでは看取りの実績も複数回あり、対応方法や配慮すべきこと、関係機関との連携について職員間で都度確認するようにしている。看取りに関して、ご家族に渡す心構え等の記した資料を準備や、心情を配慮して泊まり込みも認めているとのことであった。看取り後はカンファレンスを職員間で必ず開催していて、振り返りやメンタル面のケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会へ参加したり、緊急時のマニュアルを確認し、急変時・事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、様々な状況を想定した訓練を実施し、消火・通報・避難方法を身に付けている。週に1回防火自主点検チェックをおこなっている。非常時持ち出しファイルを常備。備蓄品の定期点検。	火災発生を想定した訓練は消防計画通り実施している。また自然災害については、台風接近及び停電を想定した訓練を実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々のお気持ちに寄り添った声掛けをおこなっている。方言を大切にしつつ、丁寧な言葉遣いを心掛けている。	利用者様を尊重した支援の基本的な姿勢として、「どうしたいですか」という問いかけを大切にしている。加えて利用者様の言葉を否定しない、排せつに関する言葉かけを大きな声でしない等、具体的な対応方法を職員同士がけている。また、法人として接遇マナー&ルールブックを準備して基本姿勢の確認や、チェックリストを定期的に実施して、言葉使い等を自己点検して注意するようにしている。一方、プライバシーの確保については、排せつ介助の際に安全に配慮しつつ、一旦トイレを出て待機する等対応を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが答えを決めて声掛けをせずに、本人の意向を尊重できるように「どうしましょうか」「どうしたいですか」と声を掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にしており、食事もお腹が減っていない方は時間をずらして提供している。外気浴や散歩、リハビリ、読書、パズル、ぬりえ、脳トレなど希望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所には清潔なくしを常備しており、鏡を見て自分で髪を整えられるようにしている。入浴後に着る服を一緒に準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングと台所が続いているので、料理の音やおいでメニューを予想して楽しんでいる。テーブル拭きやお盆拭き、食器重ねなどを手伝ってもらっている。	食事を楽しむことのできる取組みとして、コロナ禍以前はそうめん流し等の外食もしていたが、現在は感染予防のため控えている。代替の楽しみとしてホットプレートを使って皆で一緒にお好み焼きを作ることや、誕生日にリクエスト料理を提供している。その他、簡素な野菜切りや旬なものをご飯に取り入れて話題を作ったり、食器重ねを手伝う等できることを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに応じた食事形態と食器用具を支援している。スタッフが一緒に食事することで必要な支援の把握ができています。夜間は居室にお茶を準備して水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は欠かさず口腔ケアをおこなっている。自分で出来るところはしていただき、できないところを介助している。口腔ケア用品は曜日を決めて消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、日中はトイレ誘導をおこなうことで失敗を減らしトイレで排泄ができるように支援している。	排せつ面における自立支援として、基本的に排せつチェック表を活用して、利用者様お一人おひとりのパターンを把握することから始めている。入居当初、トイレ誘導毎に尿取りパッドに汚染のあった方が、トイレ誘導を重ねる度に汚染の頻度が減る、トイレで排せつする習慣が定着してリハビリパンツから布のパンツに変更となった事例を確認した。ホームではパッドの種類を検討や、夜間のみポータブルトイレを使ったり、利用者様の機能に即した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して、個々に応じた緩下剤や座薬、浣腸をおこなっている。水分や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、状態や希望に沿って柔軟に対応している。お湯につかっている時に楽しい会話ができるように支援している。ひとりひとりの入浴マニュアルがある。	入浴の頻度は基本的に週2回と決めているが、希望があれば週3回入浴することもある。1番風呂が好きな方は1番に入浴できるように配慮したり、顔が濡れることが苦手な方はシャンプーハットを活用したり、利用者様の希望に沿って支援を行っている。入浴拒否がある方への対応は柔軟な対応をベースに、敷地内にある他事業所の浴室を借りて入浴する等工夫を重ねている。利用者様お一人おひとりの入浴マニュアルは注意事項等、詳細に対応手順が記載しており、きめ細かいサービスが提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休みたい時に気持ちよく休めるように、居室環境を整えている。夜に眠れない時はリビングにお誘いして、お茶やお菓子を提供するなど、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の引き出しがあり、お薬説明書も常に最新のものを入れて、スタッフが確認できるようにしている。服薬マニュアルがあり誤薬予防に努めている。かかりつけ薬局に疑問点や副作用など確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には、ケーキ、プレゼント、食事豪華にみんなでお祝いしている。希望に応じて、自宅周辺ドライブや花屋に出掛けたりなど個別に支援している。日々の生活では、できることをお願いして必ず感謝の言葉を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出機会が少なかったため、庭でおやつを食べたり散歩や個別にドライブ支援をおこないお土産に饅頭を買っている。家族との外出はあったが、地域との交流はなかった。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出する頻度は減っているが、近隣の住宅に咲いている花を見に行ったり、季節に応じて敷地の中で日光浴や外気浴を楽しむことは日常的に行っている。コロナ禍以前は水曜日と日曜日に外出する機会を設けて、希望に沿った場所や季節に応じた花の見物等に出向いていたが、今後コロナが収まったら、再開したい意向であった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	例年は買い物支援をおこなっているが、コロナ禍で行けず、希望の品をスタッフが代行して購入している。家族からお金を預かっていることを伝えて、欲しいものを購入できることを説明し、安心できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話は自由にできる。携帯電話を持っている方もいる。手紙はスタッフが名書きやポスト投函する支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの空調管理と清潔保持を徹底し、季節の花や壁飾りなどで家庭的な雰囲気心を掛けています。狭いながらも全員がゆったりとくつろげるように工夫している。	利用者様は日中共有スペースで過ごすことが多いため、可能な限り居心地の良い空間作りに努めている。空間は明るく整理整頓が行き届いていて清潔感があり、感染症対策のため、特に温湿度調整や換気、消毒を心がけているとのことであった。また、壁には外出した時の写真や利用者様が作成した塗り絵を飾る等、至る所に利用者様の作品や活動の軌跡を見て取ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、洋間を自由に行き来できる。居室で休んだり、リビングでスタッフや利用者と一緒に話したり、洋間で読書や縫い物など思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の写真や作品を飾っている。花好きの方には、庭に咲いた花やスタッフが持参した花を飾っている。布団や枕も使い慣れたものをお願いしている。	居室内への持ち込みに関しては、危険が及ばない限り自由に搬入できるようになっている。居室内の壁には利用者やご家族の写真や手紙等が飾られていた。希望に沿って職員を中心に飾り付け等行っている。居室を見学していた際の気づきとして、居室を間違える傾向にある利用者様の部屋に、大きな文字で名前を書いて目立つように配慮がなされていた。最後に共有スペース同様、感染症対策として温湿度計を設置して空調管理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて居室に手すりを設置したり、トイレに“ノックしてください”と張り紙をしてトラブルを防いだり、居室ドアに大きく名前を書いて分かるようにしている。		